令和元年度　函館市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　令和元年１１月２６日（火）　午前１０時００分
２　場　　所　　市役所８階　大会議室
３　出 席 者　　【構成員】
工藤市長，辻教育長，藤井委員，小葉松委員，須田委員，青田委員
【事務局】
堀田生涯学習部長，松田学校教育部長，吉本生涯学習部次長，
佐藤生涯学習部次長，佐賀井教育政策推進室長，東出管理課長，
柴田恵山教育事務所長，大室教育政策課長，
辰巳学校再編・地域連携課長
【発表者】
菊池学校教育指導監，
小山南本通小学校長，小杉南本通小学校運営協議会長，
神田南本通小学校運営協議会委員，
髙間えさん小学校長，廣島えさん小学校運営協議会長
４　欠 席 者　　なし
５　傍 聴 者　　５名（報道関係者含む）
６　次　　第　　１　開会
２　市長あいさつ
３　協議事項
（１）地域におけるコミュニティ・スクールの活動について
ア　説明「本市の取り組み状況について」
イ　事例発表（南本通小学校学校運営協議会，えさん小学校学校運営協議会）
ウ　意見交換
（２）その他
４　教育長あいさつ
５　閉会

１　開会
■佐賀井教育政策推進室長
ただいまから，令和元年度函館市総合教育会議を開催いたします。
私は議事に入る前まで進行役を務めさせていただきます教育委員会学校教育部教育政策推進室長の佐賀井でございます。よろしくお願いいたします。
それでは，始めに会議の主宰者であります工藤市長からごあいさつをお願いしたいと思います。工藤市長お願いいたします。

２　市長あいさつ

■工藤市長

おはようございます。総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。本日は，えさん小学校，南本通小学校の皆さんにもお越しをいただきました。よろしくお願いします。また，日頃，教育委員の皆さんには本市の教育行政推進のために大変ご尽力をいただき，心から感謝申し上げます。

さて，全国的に人口減少が進み，本市も人口が毎年３，０００人規模で減少しているわけです。人口減少がとまるのは当分，難しいかなと考えています。日本全体の人口が減っていく中で，大都市圏はまだ多少増えているわけですが，東京，札幌もそろそろ大幅な自然減になってきますので，日本全体で人口減少が始まると思います。２０６０年，４０年後くらいには三分の一の人口が減って８，０００万人程度になり，その頃の函館は十数万人だろうと予測されています。そのような中で，人口規模ばかり追いかけるのではなく，私自身は，一人ひとりの市民の幸せ度，幸福度を上げていくことが人口減少時代を生き抜く道であると思っております。もちろん経済の活性化として，一生懸命働く場を増やしながら，糧を得ながらこの街で暮らしていくこともちろん大事ですが，それとともに今年度力を入れたのが，とりわけ子どものための教育や福祉，そして健康です。今までと方向転換したわけではありません。今までも福祉や教育に力を入れてきたつもりではありますが，一方で，新幹線開業に向けての街づくりなどさまざまな面があり，また，基盤整備がまだまだ足りないものもありまして，そういうものと並行してやってきました。重点を置いた財政もだんだん立て直ってきましたので，福祉・教育・健康といったソフト分野に力を入れていこうと思っています。教育の分野については，補正予算ではなく，４月からの学期に合わせ当初予算，骨格予算の中で組み，福祉分野，子どもの福祉については補正予算の中で，子どもの医療費の問題や，一人親家庭の支援策など，さまざまな取り組みを進めています。

一方で，函館は平均寿命が非常に短く，全国レベルで見ると，男女とも平均寿命が２歳くらい短くなっています。健康度も中核市の４５市の中で最下位であり，平均寿命も４５市の中で４４位，青森が４５位で，青函で最下位と下から２位と，非常に不名誉な状況にあり，健康づくりにも力を入れていこうと取り組んでいるところです。だた，そういう中でやはり孤立しかねない人たち，一人暮らしの高齢者の皆さん，あるいは高齢者だけの世帯，また，障がいのある方を抱えている家族，さらには子どもの貧困の原因となっているひとり親家庭，あるいは，８０５０問題に象徴される中年の引きこもりなど，さまざまな孤立しかねない人たちが増えているという印象もあります。昔に比べて，この家族の力，家庭の力がずいぶん弱体化しているということは否めない事実であろうと思います。昔は，大家族で暮らしていたり，あるいは近くに親がいたり，兄弟がいたり，親戚縁者がいる環境であったわけで

すが，だんだん現代化する中で，さまざまなところに出て働くようになり，近くにそのような人がいないという家庭が増えています。さらに夫婦で働く家庭が増え，その中で家族の力，家庭の力が弱体化しつつあります。そういう中で一時的に地域の力で，各々の地域の力で何とかしようと取り組んできましたが，地域の力も高齢化が進んで，なかなかそれを担える人がおらず，私は，街全体の力，都市の力でそれを支えて見守っていくことを考えています。街全体であらゆる世代一人ひとりに寄り添うのは難しいかもしれませんが，その人その人の暮らしと生活状況に応じて，見守り支えていく体制を作ることが必要であると思っています。それが今，首長部局では，保健福祉部が中心になり，市内１０か所にある介護を中心とする地域包括支援センターを，すべての人たちに拡大する。介護にとどまらず，拡大していくことを検討会議で検討を始めたところです。もう一つの核となるのが，町会の再生です。町会の役員の高齢化や組織率の低下などによって町会活動が停滞し，弱体化してきています。地域を支える，コミュニティを支える重要な組織であった町会が，なかなか思うような活動ができない状態になっています。これは市民部において，町会を高齢者中心のものから，ファミリー中心で活動できるようなものに脱皮していけないかと考え，町会活性化検討会議を立ち上げ，こちらも検討を始めたところです。そしてもう一つの柱が，今日の議題になっているコミュニティ・スクールです。今年度すべての市立学校に導入されましたが，地域の方々が学校運営に参画することにより，地域と学校が結びつき，子どもたちの教育活動の充実が図られていく。また，学校を核として，地域のつながりを育むとともに活性化できるのではないかと考えています。私の中では，福祉拠点づくりと町会活動の再生，コミュニティ・スクールの３つをリンクさせることで，それぞれの地域の人たちの元気を取り戻しながら，そしてすべての人に対応していける体制に向けて，取り組むことができればと考えているところです。

実は先週から学校をさまざま見せていただいております。先週は，函館短大付設の調理製菓専門学校に伺い，学生さんたちの料理とお菓子の両方の調理実習の様子を見せていただいて，ごちそうになってきました。生徒さんたちが非常にのびのびとしていて，また，調理の学校がないなどの理由で，青森など遠方からも函館に来ていることも伺いました。非常に熱心に調理の勉強をしていました。遺愛高等学校でクルーズ客船のさまざまなボランティアをやっている子どもたちとお話をしたり，あるいは，バドミントンや新体操などの部活動の様子なども体育館で見させていただいたりしました。それから，別の教室では吹奏楽が，浜松で行われる大会に向けて練習をしている様子も拝見しました。非常に，遺愛の生徒さんたちも元気でのびのびと活動している様子を見ることができました。土曜日には，新たに開校した特別支援高等学校の第１回目の学校祭へ伺いました。ちょうど劇をステージでやっていまして，そのあと歌もありました。大変上手で，びっくりしました。本当に感動しました。セ

リフも棒読みではなく，きちんと感情が入っていて，立派な劇を見せていただきました。校長先生も，芸能人のような衣装を着て，歌っておられました。子どもたちと先生方が一体となって，もちろん父母の方もいらっしゃいましたが，素晴らしいものを見させていただきました。学校には，３つのコースがあり，１つは介護関係を学んでいる子どもたちが８人ほどいまして，３年で卒業してそのあとできれば資格を取りに行きたいということで，そこで市が運営してくれるようなシステムはできないかという話を先生方としてまいりました。北斗市にある支援学校でも介護を学んでいる子どもたちがいて，合わせると１５，６人，地元で介護の仕事につける子どもたちがいることがわかりました。支援学校では子どもたちが自立していくために学んでいて，市としてもこちらの人手不足に対応していくために，非常に貴重な戦力になりうると考え，お手伝いできればと思った次第です。昨日は中島児童館に伺いました。古いですが，文化財的な建物で非常に趣がありました。授業が終わった中島小学校の子どもたちが来館し，一緒になって騒いできました。それから，学童保育へ行ってまいりました。榎本町の学童保育で，湯川小学校と高丘小学校の子どもたちが来ており，ちょうど１１月生まれの人の誕生会をやっていました。私も１１月生まれでして，一緒に祝ってまいりました。実は，私今日誕生日なのですが，子どもたちと楽しく誕生会やっていただきました。その後，亀田小学校の学童保育にも行きました。通常の２クラスと，ＮＰＯがやっている障がい児のための学童もありました。障がいのある子どもたちの中にも子どもたちを見ると全然障がいを感じさせない，素晴らしいいろいろな才能があって，子どもたちもいろいろな可能性があると，支援学校でも学童保育でも感じました。健常な子どもたちも，障がいのある子どもたちも明るくできる，そのような雰囲気の街にできたら素晴らしいと思いながら，帰ってきた次第です。

いずれにしましても，本日は，コミュニティ・スクールが議題となっており，先程も申し上げましたが，私の中での３本柱の大事な一つであると思っているところです。今日は皆さんとの協議で共通認識をもち，今後の取り組みに進んでいきたいと考えております。また，えさん小学校と南本通小学校の皆さんから貴重なお話を伺えるとお聞きしておりますので，そういったことも参考にしながら，協議を進めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

■佐賀井教育政策推進室長

ありがとうございました。それでは，次第の３の協議事項に入らせていただきます。函館市総合教育会議の運営に関する要綱第３条の規定に基づきまして，会議の進行を，市長にお願いしたいと存じます。市長，よろしくお願いいたします。

３　協議事項

■工藤市長

次第にそって議事を進めてまいります。

まず，協議事項の１，地域におけるコミュニティ・スクールの活動について説明をしてください。

■菊池学校教育指導監

学校教育指導監の菊池と申します。各学校，各協議会を訪問させていただきましたので，得た情報等を含めて，「函館市におけるコミュニティ・スクールの取組の状況」についてお話させていただきます。

お手元の資料と前方のスライドをご覧ください。

表紙に３枚の写真を載せました。向かって左側から，巴中学校，大森浜小学校ですが，これら２校については後程ふれさせていただきます。３枚目は日吉が丘小学校のふれあいコンサートの一場面です。最後に，その写真のように金管バンドの演奏で「はこだて讃歌」を歌いましたが，その歌声が本当に素晴らしく，体育館いっぱいに響き渡っていた印象を受けました。「はい，函館と答えます」と，子どもたちの歌声を聞いたとき，とても感動いたしました。それでは中身に入らせていただきます。

最初のスライドは，この１０月に文科省から出された資料です。地域と学校の連携・協働の在り方について示したものです。学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって，地域と学校の連携・協働を推進していくことが求められています。協働活動に地域が主体的に関わって，活動を維持，継続するためには，地域学校協働本部等の組織作りが大切であり，ひいては，この本部の活動によって，地域の活性化につながるのではないかと捉えております。本市では，先程のお話にもあったとおり，本年度からすべての学校に学校運営協議会が導入されました。今後は，地域学校協働本部の設置や，学校と地域をつなぐ役割を担う地域コーディネーターの配置が必要と考えております。環境が整い次第，各協議会にお願いしていくことになります。

次のスライドです。４月の定例校長会議で教育長から説明された資料の一部です。説明の中で，焦らずに一緒にやっていきましょう，とお話しされました。５月からのコミュニティ・スクールに関わる学校訪問をさせていただきました。計画や進捗状況を聞いて回りました。どの学校も真摯に受け止め，計画段階ですが，やるぞという思いが伝わってきました。

次のスライドは，平成３１年度のコミュニティ・スクールの導入状況です。単独，合同と書いていますが，単独は１つの学校に１つの協議会を設置しているもので，３９協議会あります。合同は，中学校校区の小・中学校複数で１つの協議会を設置しているところで，１０協議会あります。なお，桔梗中・桔梗小・中の沢小の３校，旭岡中・旭岡小の２校が，次年度から合同で行う準備を進めております。昨年度からいろいろ準備を進めている学校や，いろいろな形で地域とのつながりを意識している学校は，住民参画に手応えを感じられながら

取り組んでいるという印象を受けました。ただ，多くの協議会は，組織立てた実践はこれからであることも付け加えさせていただきます。

次のスライドです。各学校の訪問の折に，コミュニティ・スクールの導入の目的について，校長先生方と確認しています。学校，地域，家庭がパートナーとして一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校へ転換を図るためということを確認しつつ，学校を核とした地域づくりについても話題にしておりました。地域とのつながりの中では，本物との出会いが数多くあることも学校経営の中で大切にしてほしいと話をしています。

次のスライドです。校長先生方と意見交換を行い，導入の目的の共有化を図ってまいりました。いじめ，人間関係，不登校等々，さまざまな問題を抱えながら子どもたちが過ごしており，地域のつながりを大切にしてほしいことを再度確認しております。

次のスライドです。学校の実情に応じながら，情報交換をさせていただきました。全国のどの地域でもこのような状況であることを前置きし，地域コミュニティやＰＴＡの弱体化などが課題として挙げられているということ。つながりや支えあいなども希薄化し，本来あるべき地域の教育力の低下が叫ばれているということ。加えて，町会役員の高齢化も進み，後継者の育成も大きな課題になっており，これらが学校教育にも影響を与えているのではないだろうかということを示させていただきました。規範意識・仲間意識の低下で，個人主義というものが子どもたちの中にもと捉えている校長先生も多くいらっしゃいました。また，気持ちが不安定で，自信のない言動が多く見られ，コミュニケーション能力が不十分で，言いたいことが上手に相手に伝わらず，いじめ，不登校，社会性の欠如，しいては学力不振にもつながっているようだと話す校長先生もおりました。最後に，子どもたちの自信につなげていくような機会になればということで，コミュニティ・スクールの推進をお願いしているところです。次のスライドです。校長先生方からの主な意見として，５点程紹介いたします。１点目は，コミュニティ・スクールの取組をしっかり受け止め，学校経営に活かしながら，教育活動の充実につなげる必要があると話されていた校長先生が多くいらっしゃいました。２点目は，協議会を運営していく中では，地域コーディネーターの配置が必要で，学校側も協力し探していきたいと思うのだけれども，教育委員会でお願いできないだろうかということでした。３点目は，今，４９の学校運営協議会があり，自分たちの立ち位置や他の実践に学ぶ機会も大事なので，束ね役のようなコーディネートをする方も配置できればありがたいというお話もありました。４点目は，中学校の場合，生徒の主体性に留意する取組が多く，ある校長先生は，やがて社会に出ていくので，中学校という段階では，社会に貢献できる大人になってほしいと願いつつも，今は町会に貢献できる生徒になってほしいと述べられておりました。５点目として，少し話題が変わりますが，春の時期に学校に訪問をしたもので，新聞報道で町会加入率５５％という数字が校長先生方の目に留まり，敏感に捉えておりまし

た。市のおさえでは，もう少し少なく，５３．５％です。

では次に，特色ある実践から，いくつか紹介いたします。今日は南本通小学校，えさん小学校の方々にお越しいただいておりますので，２校の実践につきましては，後程，詳しく発表をさせていただきます。１点目は，伝統行事を窓口に，多世代交流に取り組んでいる学校ということで，南本通小学校，隣の本通小学校，が例として挙げられています。両校とも七夕祭りの実践を通して，町会はもちろん，包括センター，近隣の大妻高校など，幅広い住民とともに活動を創り出している学校です。２点目は，高校との連携を重点事項に加えて取り組んでいる学校で，昭和小学校と巴中学校があります。昭和小学校は，函館商業高校と，巴中学校は中部高校との連携です。中部高校の生徒の言葉が本当に印象に残っているので，紹介いたします。「昨年，中部高校の生徒にいろんな形で僕たちは教えてもらった。今度は僕たちがその恩返しをする番だと考え今回参加した。」ということを耳にしました。この「恩返し」というのは，とても大事だと思っております。町会の方が，額に汗して自分たちのために頑張っている。何らかの形で私たちもという思いを大切にしてほしいと考えます。次に，地域密着型の学校運営協議会の設置を推進していく学校として，スライドにあるとおりです。どの学校，どの協議会も，根底に「つながり」の土壌がしっかりある印象を受けております。その他の実践について，３校ほど紹介いたします。大森浜小学校は，冒頭で紹介しましたが，子ども見守り隊として地域ボランティアの加入が１７０人ほどいらっしゃるそうです。大森浜小学校の大きな課題である防犯という点に対応していただいております。旭岡中学校は，夏休みの学習サポーターとして地域へ募集し，４人の地域の方がサポーターということで加わっていただいたということです。教科を数学と限定したもので，なかなか集まらなかったと校長は反省しておりました。桔梗小学校は，町会とＰＴＡ共同のバザーを開催し，盛り上がったそうです。学校の隣に「地域包括センターよろこび」があり，「よろこび」の方々も参加し，内容の充実が図られたと話されておりました。

次に，令和２年度に向けて，現在２点ほど検討を進めていますので，紹介させていただきます。１点目は，地域コーディネーターの配置です。可能であれば，８協議会程度に地域コーディネーターを配置していきたいと思っております。環境が整い次第，コーディネーターを見つけ，教育委員会としても全面的にバックアップしながら，スライドに記載している点について，検証を重ねていきたいです。２点目は，地域学校協働活動連絡会議です。各協議会の進捗状況等について，交流し合いながら，配置された地域コーディネーターの方々の不安や悩みを少しでも解消できる体制を整備したいと思います。それと合わせて地域全体で子どもたちの成長を支える気運を醸成しながら，地域コミュニティの活性化につなげていければと考えております。

最後に，これらの取組から，幅広い地域住民等の参画を得て，持続可能な体制づくりを模

索しながら，本市のコミュニティ・スクールの確立と，協働活動の充実につなげていきたいと考えております。私からは以上です。ありがとうございました。

■工藤市長

はい，それでは続いて，各学校の取り組みをお話しいただきたいと思います。

まずは南本通小学校の学校運営協議会の取り組みについて，よろしくお願いします。

■小山校長

南本通小学校校長の小山です。よろしくお願いします。本日は，本校ＣＳの七夕プロジェクトを中心に発表させていただきます。説明は私と，本校ＰＴＡ会長でＣＳの地域連携コーディネーターをお願いしております神田克実さん，そして，函館市地域包括支援センター神山の所長で，本校のコミュニティ・スクール運営協議会の会長をお願いしております小杉あゆみさんの３人で進めさせていただきます。

七夕プロジェクトは，学校とＰＴＡ，町会，地域包括支援センターが協働し，函館の伝統行事であります，七夕祭りをきっかけとした，多世代交流を目指したものです。学校としてのねらいは，子どもたちが，人々との関わりを広げ，体験を通して，課題を追究する力を育むこと，地域の一員としての意識や自覚を高めることにあります。それでは地域側，つまり，福祉や街づくりの視点を，小杉さんからお願いします。

■小杉運営協議会長

地域，福祉における課題として挙げられるのが，地域の高齢者と若い世代の接点が少なく，高齢者の孤立や地域活動の担い手不足があることです。これらは，一朝一夕に解決できることではありませんが，今回のような取り組みをきっかけとして，お互いに地域の中で，見守りや声かけができるようなつながりを作っていくこと。そして，地域活動の活性化を図り，孤立する高齢者をなくし，安心して暮らせる街づくりを目指していこうと考えました。この取り組みのきっかけは南本通小ＰＴＡと包括支援センターが出会った，平成２９年１０月にさかのぼります。多世代での情報共有をどのようしていくのか，もっと町会と学校が連携し合えるようにできないものかと考え始めた頃，函館市主催の，地域福祉懇談会で圏域内の町会や民生委員，小・中学校のＰＴＡ役員の方々との出会いがありました。

■神田南本通小学校運営協議会委員

私はその時初めて，地域の高齢者の方々が，若い世代ともっとつながりたいと感じていることを知りました。ＰＴＡとして親として，地域と学校が一緒に何かできることはないかと考え，校長先生に相談したのが始まりです。

■小杉南本通小学校運営協議会長

神田ＰＴＡ会長が，小山校長に働きかけてくださり，その年の１２月には初めて，地域ケア会議を南本通小の子どもたちと一緒に開催することができました。この地域ケア会議で

は，地域の方々とグループになった子どもたちが，若い頃の思い出や，最近困っていることなどの質問を行い，また一緒にできたらいいなと思うことを話し合って発表しました。七夕祭りの話題もこの時に出ていました。

■小山南本通小学校長

コミュニティ・スクールの導入を視野に，地域の方々との連携を，もう一歩進めたいと考えていたところでしたので，この時はとても良い機会をいただいたと思いました。子どもたちにとっては，教師の予想以上に新鮮で楽しい時間だったようです。

■神田南本通小学校運営協議会委員

こうして迎えた平成３０年度，まずは七夕祭りを媒体に，地域の方々と子どもたちの交流を図る取り組みを計画しました。

■小山南本通小学校長

１年生は，はさみの使い方を学ぶ図工の時間に，地域の方々と一緒に七夕飾りづくりを。５，６年生は，総合的な学習の時間に位置付け，来てくださった方々のお名前や，プロフィール，おうちの場所などを伺うインタビューを行いました。その後，５，６年生はインタビューをもとに，七夕マップや七夕祭りのポスターを作りました。こうした取り組みをコーディネートしてくださったのが，神田さんです。

■神田南本通小学校運営協議会委員

この年の取り組みは，学校，包括支援センター，ＰＴＡの打ち合わせからスタートしています。そこで，交流会の参加者の募集や，活動の周知のために，町会に出向いて説明や協力を依頼いたしました。七夕祭りの当日，その年は，全校児童の参加ではなく，交流会に参加した１年生と５，６年生が中心でしたが，交流会で一緒に作った笹飾りが出ているお宅や，ポスターを貼っているお宅を探して訪問いたしました。

■小杉南本通小学校運営協議会長

地域の方々は，早くからお菓子をたくさん買って，七夕祭りを楽しみに待っていましたし，当日も子どもたちがたくさん来て，嬉しかったという声がたくさん寄せられました。

■神田南本通小学校運営協議会委員

初めての試みでしたので，課題もたくさん見つかりましたが，この行事をきっかけに，地域であいさつをしてくれる子どもたちが増えた，今年は参加できなかったけど，来年は参加してみたいという地域の方々の声もあり，地域とのつながりを深める可能性を大いに感じた１年目でした。

■小山南本通小学校長

また，この年，本校では，その他にもコミュニティ・スクールの導入を控えて，新たに地域と連携したさまざまな学習活動に取り組みました。

■神田南本通小学校運営協議会委員

私はその都度，コーディネーター役として，学校と町会をつなぐ役割を果たしながら，地域の方々とお話をする機会が多くなり，改めてＰＴＡとして，地域の一員として，子どもを真ん中に，つながることの大切さを強く考えるようになりました。そのため，ＰＴＡの体制も見直し，コミュニティ・スクールの取り組みに，保護者も無理なく，楽しみながら参加できる方法を模索しています。

■小山南本通小学校長

こうして本年度，本校も正式にコミュニティ・スクールとなりました。

■小杉南本通小学校運営協議会長

これまでの南本通小学校との関わりから，私が運営協議会の会長としての役割をいただき，最初の地域連携活動に七夕プロジェクトを位置付けました。また，４月には，学校，町会，ＰＴＡ，包括支援センターなど各機関が集まって，七夕プロジェクトの実行委員会を組織し，準備をスタートさせました。資料編のＡ３版の資料②をご覧ください。今年度は，企画段階から，町会の皆さんにも加わっていただきました。例えば，南本通町会では，町会として広報や参加者の掘り起こし，当日の子どもたちの誘導などに知恵を絞ってくださいました。

■神田南本通小学校運営協議会委員

ＣＳコーディネーターとしては，各関係機関との連携を密にすることによって，進行状況を把握し，課題があれば早めに調整するなど，確実に七夕プロジェクトを推進していくことを心掛けました。

■小山南本通小学校長

こうして６月７日には，七夕交流会を行いました。内容は昨年と変わりなく，１年生が七夕飾りづくり，５，６年生はインタビューと七夕マップ，ポスター作りです。教育課程に位置付けた学習活動を行いましたので，学校としての新たな負担はありませんでした。一方，実行委員会に町会の皆さんが加わったことで，地域の参加協力のお宅が倍増したということは驚きでした。そこで今年はスタンプラリーの形式を取り入れ，全学年の児童がたくさんの地域の方々のお宅を訪問できるような仕掛けを考えました。

■神田南本通小学校運営協議会委員

七夕当日は，最終的に５６軒の方々が，七夕プロジェクトに協力してくださいました。また，町中では，グリーンジャンパーを着た町会の方々や，オレンジベストを着た本校ＰＴＡが，子どもたちを誘導し，声掛けをするなど活動いたしました。普段は静かな住宅街が，当日は，子どもたちの楽しそうな声や地域の方々の笑顔があふれ，本当に感動的な風景でした。

■小杉南本通小学校運営協議会長

地域の参加協力者の中には，用意していたお菓子が足りなくなり，慌てて買いに走るお宅もあり，昨年以上に町がにぎわい，参加した住民たちも大喜びでした。その後，第三回実行委員会で，七夕プロジェクトの振り返りを行い，各関係機関の反省をまとめたものが，資料編Ａ３版の資料③です。また，七夕プロジェクト実行委員会では，今後もＣＳの活動を，具体的に推進していく協働活動推進委員会として，継続・発展させることとなりました。

■小山南本通小学校長

以上，七夕プロジェクトを中心に，ＣＳの実践を発表させていただきました。本校のコミュニティ・スクールとしての取り組みは，まだまだ始まったばかりです。先日は函館市のクリーン作戦に，町会とＣＳが連携して参加をし，その後レクを行うというコミュニティ・スクールの日という初のイベントを実施したところです。これらの取り組みを通して，学校の教育的ニーズと地域課題をうまくマッチさせることによって，ＣＳではさまざまな可能性が広がること。また，子ども，保護者，地域の方々，教職員との顔の見えるつながりが生まれるというメリットを感じているところです。以上です。ありがとうございました。

■工藤市長

どうもありがとうございました。今，南本通小学校の学校運営協議会の取り組みについて，お三方からお話をいただきました。さまざまな議論は後ほど行いたいと思いますが，委員の皆さんから今のお話で何かご質問等ございませんでしょうか。

■小葉松委員

先程，神田さんから，初年度の七夕プロジェクトをやった後にさまざまな課題がありましたとお話しがありましたが，具体的にはどのようなことが課題になったのか，伺いたいです。

■神田南本通小学校運営協議会委員

まず，初年度で全く予想がつかなかったものですから，どのくらいのお宅が協力してくれるかがわかりませんでした。今年は５６軒でしたが，最初の年は２０軒ほどで，最初の交流会に参加していただいたお宅のみでしたので，子どもたちが回るのに距離があり，難しかったということです。また，地図を作りましたが，その地図が少しわかりにくく，子どもたちが探せず，大人が誘導しながら行いましたので，そのあたりももう少し詰めていかなくてはいけないということがありました。

■小葉松委員

ありがとうございます。

■工藤市長

先程，私，あいさつの中で申し上げましたが，地域包括支援センターと町会，それからコ

ミュニティ・スクールの３つをリンクさせていく。まだ初期段階ではあると思いますが，それをまさに今，南本通小学校で実践されていると感じました。今，七夕プロジェクトに絞っていますが，これからまだまだいろんな面で拡大していく方向性はありますか。

■小山南本通小学校長

教育課程全体の中でも，去年，今年において試行で実施してみたものがありますので，まずはそれらを教育課程の中に組み込んでいくことです。それから，先程もお話ししましたように町会の加入者が非常に少ないので，クリーン作戦等に参加したことのない子どもたちも，保護者もたくさんいまして，それらをリンクさせるためについ先日，町会の取り組みにコミュニティ・スクールとして参加することで，町会員ではない保護者や子どもたちも，地域の方たちと一緒に活動しました。ただし，それだけではなかなか集まらないので，後半にレクを企画して，学校でもいろいろ取り組む動機づけを組み合わせながら行っています。また，１２月の始めに給食試食会を行いますが，今までは保護者だけだったものを，町会の方々にも呼びかけました。２０人ほど参加をしてくださり，合わせて５０人くらいの大所帯になります。親と地域の方々で給食試食会を開催した後は，地域と保護者の方々が参加し，６年生のスマホの取り組みに関わって，しゃべり場と称する討論会も企画しています。また，各地域でもやっていらっしゃると思いますけれども，地域人材をさまざま登録いただき，先生方のニーズと，保護者の方や地域の方がこんなことだったら提供できるよというものを，これからうまくマッチさせていくような仕組みも協働活動推進委員会の中で諮りながら，進めていければと話し合っているところです。以上でございます。

■工藤市長

わかりました。南本通町会の役員の方などは高齢化してきているでしょうか。今担っていただいている方々には継続してもらいますが，そこに，子どものいるお父さんお母さんに町会活動にも入っていってもらう。そのためには，学校とどうしてもリンクさせる必要があります。町会だけで入ってくれといってもなかなか難しい。退職された方と違って平日は皆さん働いている人が多いので難しいので，土日のイベントなどやっていただくことが必要なのかなと思っています。南本通小学校では，学校の行事とＰＴＡと地域がうまく結びついている理想的な例で，さまざまな面でより伸ばして，函館の中で先進的なものを築いていってほしいと思います。また，資料の中に，ベルマーク活動の廃止，広報紙の見直しなどと記載がありますが，どのようなことですか。

■神田南本通小学校運営協議会委員

ベルマークですが，ここでこういうことを言っていいのかわからないですが，大変労力がかかる一方で，点数が集まらないのです。今，お母さんたちのなかでＰＴＡ活動に参加してくださる方が少なく，そのベルマークを集めて計算することができない状況です。その作業

を３人４人でやると，何か月もかかってしまうというのが現状で，全く現実に合っていないと思い，思いきってやめました。広報紙は年に一度出していたもので，中身については，だんだんお母さんたちも忙しくなり記事が減って写真になってしまいました。それであれば，情報を提供する方がいいと思い，実は，私たち三役で，地域版とＰＴＡ版と，常に学校からの情報を，地域にもＰＴＡにも配信できるよう通信という形で残しました。広報紙を出すことに代わり，何かあれば通信を出して，皆さんに周知していただく形にシフトました。

■工藤市長

非常に進んでいると思います。既存のさまざまなものの中に，無駄な労力をつぎ込んでいる例として，今ＰＴＡの活動の話もありましたが，町会も同じです。回覧板においても，チラシばかりの回覧板で，遅れたら隣に悪いからといちいち冬の寒い時でも回して歩く。本当の連絡事項と言えるのはほとんどなく，頼まれものばかりです。ですので，私は，市役所の職員に町会にできるだけ頼むなと言っています。町会の大変さにもつながっていて，町会に加入したときに若い人たちが嫌がる。なので，できるだけ町会に頼むのを減らしていって，省力化して本来のことに専念してもらう。町会のコミュニティを維持する，楽しんでもらう。そのようにやっていくべきだと思っている。南本通小学校は進んでいますね。住民や学校に頼るだけじゃなく，地域包括支援センターなどと，今は介護しかできず，人的な制約があるが，人的にも，予算的にも拡大して，専門の人たちが携わり，また町会や民生委員，学校と連携しながら進められればいいと思います。南本通小学校にさらに頑張ってほしいと思います。

次にえさん小学校からよろしくお願いします。

■髙間えさん小学校長

函館市立えさん小学校校長の高間猛と申します。

■廣島えさん小学校運営協議会長

私は学校運営協議会会長，廣島千年と申します。

■髙間えさん小学校長，廣島えさん小学校運営協議会長

よろしくお願いいたします。

■髙間えさん小学校長

学校を核とした地域づくりの一歩として，地域とともにある学校を目指す，ＣＳえさん小の取り組みについて，ご説明申し上げます。

えさん小学校の概要につきましては，お示しさせていただいたとおりです。詳しくは省略させていただきます。学校運営協議会であるＣＳえさん小は，昨年４月に発足し，今年２年目を迎えております。

■廣島えさん小学校運営協議会長

２年目を迎えたＣＳえさん小は，今年８月に開催した納涼祭りが大きな成果を上げましたので，ご報告いたします。以前恵山地区では，夏に町内会の盆踊りがあり，地域におけるさまざまな世代間の交流の場になっておりましたが，その催しがなくなってからかなりの年月が経っております。ＣＳでは，地域の方々に学校をさらに身近に感じてほしいとの思いで，納涼祭りを開催しました。本校では，平成１６年の統合からこれまで，ＰＴＡでもバザーやお祭りなどを実施したことはなく，このような大きいイベントは，開校１６年目にして初めてでございました。参加者は２００名を超え，ほとんどの児童が参加してくれるなど，大成功でした。当日は，子どもカラオケ大会や，地元の方々からいただいた商品もあり，大いに盛り上がりました。また，たくさんの方々に足を運んでいただき，地域と子どもたちとのつながりを広げることができました。納涼祭りの運営は，すべてＣＳえさん小の委員と，各団体に声をかけて，集まった方々で行いました。もちろんＰＴＡの方々も大活躍していただきました。目的は，地域に住む大人たちと子どもたちとの交流であり，とにかく参加して楽しんでもらうことを一番に考えました。バザーや各出店，ともに完売いたしまして，収益も上がりましたので，後日，サッカーゴールや屋外遊具の塗装などに使わせていただき，地域の方々の目を楽しませています。この納涼祭りの成功で，ＣＳえさん小を広く知ってもらうことができ，子どもたちと地域の方々との一体感も今まで以上に生まれてきました。今後，えさん小を中心に，地域が盛り上がるのではないかと思い，セカンドステージに入ったことを実感しています。

■髙間えさん小学校長

このように，セカンドステージに入ったＣＳの活動ですが，私からは，ここに至るまでのファーストステージの取り組みについて，ご説明いたします。昨年４月に発足した，本校の学校運営協議会ですが，当初から大事にしてきたことは，つながりです。そのため，ＣＳえさん小は４つの目標を掲げました。配付資料にもありますＣＳだよりを定期的に恵山地区１，５００世帯すべてに配付し，地域住民にＣＳを知ってもらいたいとも考えました。また，来校された方々の目にとまる掲示板を，校内に設置し，情報提供も心掛けています。４つの目標の１つ目，熟議を重ねて共有する場，学校運営協議会について説明いたします。メインは地域のさまざまな組織，団体で活躍されている方の８名です。アドバイザーとして恵山教育事務所長，事務局として教頭が参加しております。熟議の主な内容は，学校・家庭・地域での子どもたちの姿です。詳しくは配付資料のＣＳだよりをご覧ください。発足以来１年８か月で，これまで１０回の会議を開催し，情報共有で学校とのつながりが深まりました。一例ですが，熟議の中で，読み聞かせボランティアの方が減ったという学校の悩みを話したところ，ＣＳの委員の方が引き受けてくださるという成果を上げることもできました。２つ目の，地域の方々に学校まで足を運んでもらう，の例です。学校での交通安全教室開催

が熟議の話題に出ると，高齢者も交通弱者だ，地域の高齢者も参加させたい，とＣＳの委員さんが呼びかけてくださり，当日，町内会の高齢者がたくさん参加してくださいました。また，例年実施されている地域公開参観日には，授業の外部講師を全学年すべて地域の方々にお願いし，参観日も多くの地域の方々が来校するなど，つながりを感じました。３つ目の，地域の学びをサポートしていただく，の例です。４年生以上の春の遠足は，霊峰で活火山である恵山の山頂登山に挑戦します。ＣＳの委員で恵山に詳しい方にガイドしてもらいながら登山します。また，年１回の磯遊び体験学習では，ＣＳの委員で漁業組合の方に，海の生き物とのふれあいから学ぶ体験学習を全面的にサポートしてもらっています。４つ目の，地域に感謝し参加する，の例として，地域合同津波避難訓練があります。今年，行政や地域の方々のご尽力で，学校から最短の避難路が整備されました。本校が海に近いだけでなく，自宅も海に近い児童が多いことから，周りの大人や高齢者にも声かけをしながら避難する心構えを大切に参加しました。また，磯遊び体験学習の前に，ボランティア清掃をします。恵山中学校の生徒とともに実施する取り組みとして，毎年続いています。今年９月に，恵山地区の交通事故死ゼロが６，０００日を達成しました。えさん小学校開校前から続く記録で，地域の方々が守り続けたことに感謝し，式典に参加して記録を守り続ける決意を新たにしました。子どもたちは，地域の行事にたくさん参加しています。春の恵山つつじ祭りでは，よさこいソーランを披露しています。また，秋の恵山文化祭では，地域の素晴らしさを歌にした合唱曲を披露するだけではなく，つつじ保育園，恵山中学校，そして地域の方々と一緒に歌声を響かせます。まさに地域との一体感を味わう貴重な体験です。

■廣島えさん小学校運営協議会長

　このように，私たちＣＳの委員は，学校の望む応援を今後もささやかではございますが，地道な活動でつながった地域のさまざまな方々を，ＣＳえさん小サポーターとして，今後広めていきたいと考えております。以上です。ありがとうございました。

■工藤市長

　どうもありがとうございました。えさん小学校のお二方から，お話をいただきました。何か委員の皆さん，ご質問等ありませんか。

■小葉松委員

　資料にありますＣＳえさんだよりは，結構細かく綿密に作られていて，頻繁に出されているということでしたが，これは学校の先生がお作りになっているのですか。

■髙間えさん小学校長

　はい，これは教頭が作っています。

■小葉松委員

　これを見ますと，逆に先生の負担が増えていないか少し心配になりましたが，どうでしょ

うか。学校側からすると，結局，ＣＳにすることによって仕事が増えるのでは，あまり意味がないのではないかという気もします。とても一生懸命作ってくださっているように見えるので，大変ではないかというちょっと心配もありまして，質問でした。

■髙間えさん小学校長

ありがとうございます。

■工藤市長

他にありませんか。はい，須田委員。

■須田委員

ＣＳだよりを，全戸配付されているということですが，これは先生方皆さんで配付されたということですか。

■髙間えさん小学校長

恵山地区１，５００世帯に，市政だより等々合わせて一緒に帳合をして，学校通信やＣＳだよりと一緒に差し込んでいます。

■須田委員

市政だよりなどと一緒に差し込むような形になっているんですか。

■髙間えさん小学校長

はい。

■須田委員

町の雰囲気がわからないところがありますが，恵山地区では，例えば隣近所に誰が住んでいるということはご近所でわかっている，そのような町と捉えてよろしいでしょうか。

■廣島えさん小学校運営協議会長

恵山地区，もとの恵山町は，委員がおっしゃったとおりもちろんご近所づきあいもあり，田舎でございますので，十分わかっております。隣近所との連携は強くなっているところです。

■須田委員

ありがとうございます。

■青田委員

恵山地域の方々の声として，コミュニティ・スクールが始まったことによって，このような変化があったなど，地域の方々の声を教えてください。

■髙間えさん小学校長

各団体の代表の方などがＣＳの委員をやっておられますが，皆さんの声を聞くと，子どもたちのさまざまな様子が伝わってくるようになりましたし，例えば，危ないことをして，浜で釣りをして遊んでいるよ，ということなどいろんな情報を教えていただけるようになりま

した。そういう意味では，情報を地域と共有できていることが成果だと考えております。

■廣島えさん小学校運営協議会長

それから，ＣＳが始まったことによって，学校の行事，例えば先程の交通安全教室や学芸会などにより地域の方に参加してもらえるになるなど，地域のつながりが強くなるような取り組みの推進ができておりますので，先程の納涼祭りもそうですが，ＣＳという組織があって，それを企画して行ったことによって，より地域の方がＣＳを通じて学校のつながりが強化されたというような声も挙がってきております。

■青田委員

ありがとうございます。

■藤井委員

恵山地区は地域での運動会，健康祭りなどはありますか。

■廣島えさん小学校運営協議会長

昔の町時代はございましたが，今は特段ございません。ただ，社会福祉協議会などがやっております福祉祭りなどは，地域の文化祭などと共催で，行っているものはございます。

■藤井委員

いろいろな協働の取り組みがされていますが，先程市長の話にもあった健康という視点はとても大事だと思いまして，例えば，今後，小学校でやっている運動会を，地域と一体になってやるようなことは企画などはございますか。

■髙間えさん小学校長

今のところは予定はないですが，現在も運動会プログラムの中に一般の方や高齢者の方も一緒に参加する種目がありまして，また，町内会の方からもさまざまなご支援をいただいて景品を用意しています。それから，未定ではありますが，中学校と合同の運動会なども，いずれ開いていく時代が来るという話はしているところです。そういった中で，地域ぐるみで行う行事は，今後実現する可能性があると思っております。

■藤井委員

わかりました。

■工藤市長

合併した東部４支所管内，いわゆる旧４町村ではまだ町会の加入率も７０％くらいと高く，地域コミュニティが生きている地域と思っています。ですので，コミュニティ・スクールが発足する前から，ある程度似たようなことは地域でやってきているのかなと思っています。地域や学校とのつながりが元々強い地域なので，都心部に比べると，コミュニティ・スクールに非常に取り組みやすい地域だと思います。関心も高く，また，おらが町の学校のような意識があるので，祖父母も父母も，みんなその学校を卒業してきているという意識があ

る。そういう意味で，非常に活発に行われていると感じました。これからまだ子どもたちの数は減っていく可能性がある。その中で，親だけではなくて地域として，とりわけ，旧４町村の人口減少というのは激しい。高齢化も一番進んでいる。その中では，子どもたちの存在が非常に貴重なわけでありまして，その元気な声が地域で聞こえないというのは，非常に寂しいことです。これからもがんばっていただければと思います。

それでは，南本通小学校，そしてえさん小学校の学校運営協議会の皆さんからお話しをいただきました。各委員の皆さんから，これまでを通じて，ご質問，ご意見，あるいは感想等ありましたらよろしくお願いします。

■藤井委員

この発表自体が，校長先生から，ＰＴＡの方，地域包括支援センターの方が，流れるように連携されており，コミュニティ・スクールを表しているようで大変感動しました。私が先程，えさん小学校に運動会のお話しを伺いましたのは，私の経験からでした。少子化によって，私が赴任した学校では，児童数，生徒数も減少し，体育大会・運動会を小学校と中学校合同でやらなくてはいけなかったものですから，子どもたちは何回も出番が回ってきて，疲れ切っていました。その準備も大変でした。一方，地域は高齢化によって，とうとう地域の運動会を持てなくなってしまった。それで幼稚園，小学校，中学校，地域と話し合いをして，４者合同の運動会をやった経緯があります。それによって大変盛り上がったこと，そして小・中学校の負担も減ったという経験がありました。また，やっぱり一発勝負ではないので，それに向けて，地域の方も，高齢者の方も準備をしたり，グラウンドに来て練習したりしていました。ですので，健康についても考えますと，今，小・中学校の運動会，体育大会も１つの過渡期を迎えていると感じましたので，ぜひ，合同の形で盛り上げていくと，コミュニティ・スクールの中に，地域全体としての健康アップも図れるように感じましたので，ぜひ，検討いただきたいと思いました。また，恵山や椴法華では，地域全体で災害訓練をされていますので，市内の南本通小も，実際に災害訓練するのも，これからは何か有事の際に有効ではないかと思いました。ありがとうございました。

■工藤市長

はい，小葉松委員。

■小葉松委員

先程の南本通小学校のベルマークのお話しが，少し気になりました。確かに，お忙しいお母さんが学校に来てやるのはとても大変です。しかし，せっかく関係機関と連携していますので，例えば，地域包括支援センターとの連携によって，デイサービスに来る高齢者の方々に，はさみを使ってベルマークをきれいに切ってもらうことはどうでしょうか。手を使うことは頭の刺激になりますので，そのように外部委託したり，その包括支援センターに来る

方々の家庭にも声をかけるなどして，学校もアウトソーシングして，地域でベルマークを集めて集計してもらえないか，ということもしてみてはいかがかなと思いました。

■小山南本通小学校長

ＰＴＡと連携してこれまでは活用していましたが，やはり１つには作業が大変だということで，１回整理はしましたが，今小葉松委員から素晴らしいアイディアをいただきましたので，そのようなことも含めて，検討できそうだと感じました。

■小葉松委員

もう１つよろしいですか。函館市で全部ベルマーク集めたら，結構なものになるので，捨てられているものを集めようという発想はどうかと思いました。

■工藤市長

何か，ベルマークに代わるよいものを考えた方が，いいような気がしますが。

■小葉松委員

眠っている財産ではあります。

■工藤市長

ずっと昔からあるものですか。

■小葉松委員

ずっと昔からあります。全く制度も変わってないです。せっかく今ありますので，活用したらよいのではないかと考えました。ベルマークを子どもたちのために使えるものに換えられるということなので，そういうところと連携しませんか，ということです。

■須田委員

両校の活動事例を聞かせていただきまして，大変進んでいて，とても参考になりました。この活動をする上で，皆さん相当ご苦労なさっているのではないかと思います。そのご苦労には感服いたします。他方，いろんな事例を他の学校からも聞いておりまして，頑張っている学校もよく聞いてはいますが，その半面，スピード感が各校で違うことも否めないと感じています。その辺を，先生の業務改善ということもありますので，リーダー的な方が引っ張っていかなければできないという形ではなく，全校でこういったことが進めていければよいと思います。そのために何をしていけばよいか，これからの課題だと感じます。伺いたかったのは，恵山地区のように地域一体となって進んでいる学校と，また，南本通地区のように，都市部にある学校とは，少し方法が違うかな，難しい面もあるのかなと思います。一生懸命やってくれる地域の方，ＰＴＡの方はいらっしゃると思いますが，そのメンバーが固定してくるのではないかという危険もありまして，当初，冒頭に，市長がおっしゃられた，家庭力が弱体化する中で，孤立しているような人をそういった活動に引き込んでいくためには，どういう方法がよいか，周りを引き込むためにはどういったことをすればよいのか，ア

イディアがありましたら，お伺いしたいと思います。

■小杉南本通小学校運営協議会長

私からは，高齢者や地域の立場からになりますが，町会の役員の方々がほとんど中心になってやられていて，神田さんからも課題として挙げられていましたが，この取り組みをするにあたってマンパワーの不足がやはりありました。子どもの安全を確保するための見守りや交通整理をする方が少し足りなかったこともあり，できれば来年度からボランティアを募りたいという声も上がっています。活動に参加している高齢者の方も限られていて，固定化されていて，他の役割も担っている方がやっているというのが現状です。ですので，この取り組みを町会の役員の方など町会に入っている方には届くのですが，町会に入っていない方には，情報が届いていない現状がありますので，そこをどのように掘り起こしていくかということですが，今のところ，町会の方からの口コミや，あとは子どもたちがやっていれば，高齢者の方も，子どもに関しては少し寛容な目で見ていただいて，楽しそうだ，と出てきてくださる方もいらっしゃいますので，うまくそのあたりを考えながらやっていきたいと思っております。

■須田委員

はい，ありがとうございます。

■工藤市長

はい，他にございませんか。

■青田委員

今回の２つの学校の事例発表は，道内でも結構進んだ活動をされていて，頑張っていらっしゃると思います。ありがとうございました。一方で，函館市内を見ていくと，実は，コミュニティ・スクールという言葉はやっと少し広がり始めているとは思いますが，実際には，まだまだ保護者の立場からすると，そこで何が行われているのか，主体的に自分たちは何をすればいいのかがピンときていない方が，実はいっぱいいらっしゃるといろいろな方面から聞いていました。先日も，ＰＴＡつながりの方々から，コミュニティ・スクールの委員にはなったが，実際のところは何をしていいかわからないので，みんなで勉強会をしないかという話になり，地域が主体となって，勉強会をやろうと活動を始めてきています。その中でもいろいろありましたが，１つは，しっかりと学校の事情を知らないと，勝手に言えないことや活動に参加できない部分があり，学校の事情を知ることが非常に大事であり，学校の先生方を楽にさせてあげるということもやはり必要ですよね，という意見や，それから主体的に自分たちから活動を企画したり，出したりしなきゃいけないという発言があって，そのような形ができる体制づくりを，地域と行政，学校と連携しながら作っていけたらと思います。また，先週のその勉強会には，市教委からも，辰巳課長に情報共有等，助言として参加いた

だき，一緒にやらせていただきました。このような形で，地域と教育委員会，学校と一緒になってコミュニティ・スクールでできること，コミュニティ・スクールを使ってできる地域課題の解決は何か，ということをしっかり熟議できるような体制ができればよいと思っております。もう１つは，コーディネーターさんの存在です。南本通小学校は，神田さんがコーディネーターとして一生懸命動いてらっしゃる姿を，私も近くで見てわかっていまして，このような方々が，今後登場していかなければいけないと思いますが，各学校に聞くとうちの学校区にはそのような方は残念ながらいないとおっしゃる方もいます。確かにすぐには難しいかもしれませんが，コーディネーターを育成していくという気持ちで，町でコーディネーターを育てて，学校運営協議会ごとに，コーディネーターが最低１名いる状況を早く作っていただいて，もちろんそこには予算が必要な部分もあろうかと思いますが，そちらも含めて進めていっていただければよいと思いました。以上です。

■工藤市長

お話し聞いていますと，今日，南本通小学校とえさん小学校に発表してもらったように，全校が，コミュニティ・スクールに関わっている先生や皆さんが発表を聞く，研修を行う，情報交換をする場を作ることが必要かも知れません。自分のところの立ち位置が今どのくらいにあって，そちらは進んでいる，あちらも進んでいるかもしれない，そういうことをやっているの，など情報交換の場が必要かも知れないですね。年に１回くらい，特徴的なことをやっている学校を，何校か選んで発表してもらって，研修してもらう。あるいは，コーディネーターの役割をする人たちの研修会のような形を設けるなど，よいのではないでしょうか。

■小葉松委員

先程のベルマークに関わって補足させていただきたい。ベルマークというのは１つの例えであります。何をいいたいかといいますと，青田委員のおっしゃったように，ＣＳを継続していくためには，地域の人材やコーディネーターになるような，ある程度能力のある方が必要だということも事実だと思いますし，まず，市長が冒頭のお話でおっしゃられたように，地域全体の，例えば，社会への参加が難しい方たちも取り込むというお話しに実はつなげたかったものです。そのようにシンプルで単純な作業で，確かにベルマークは前時代的な遺物のように思われているかもしれませんが，今の日本は，効率化を追求してきたことによって，そこから逸脱して，滑り落ちてしまっている人がたくさんいると思います。そういう人たちにもこういう仕事をすることで，地域からありがとうといってもらえる，そういう仕事があるということがわかるだけで，そこに誰かを取り込んできて，そこからつながっていくきっかけとして非常にシンプルなお仕事が，今現在学校にあって，利用してほしいという気持ちであったのですが，その部分が伝わってなかったのかなと思います。私は医療の現場か

ら見ていると，自分たちは能力がないからダメだと思って引きこもっている方たちがとても多いですし，高齢者の中に自分のやる仕事がもう外にはないと思い込んでいる人たちなど，本当に社会に出られない人たちをたくさん見ているので，そのような人たちも取り込めるような，コミュニティ・スクールになっていってほしいと思います。

■工藤市長

各地域の老人クラブの皆さんと相談されて，子どもと老人と一緒になってやるのでもよいですね。

■小葉松委員

老人だけでなく，引きこもりの方たちにもぜひ手伝ってほしいと思います。

■工藤市長

いきなり出てくるのは難しいかもしれないですが。

■辻教育長

改めて，発表していただいた２つの学校の校長先生と，支えていただいている方々，ありがとうございました。総合教育会議で，学校の職員ではない方が発表することが，とても珍しいことだと思っているので，とても貴重な場になりましたし，また，そのお立場でなければ感じないことも，私たちは今日，とても吸収できて良かったなと思っています。本当にありがとうございました。

コミュニティ・スクールは，五稜郭中学校に，最初に１校入れまして，その後，去年７割になり，今年１０割になりました。少し急いで進めたとは思っていますが，その背景には，物事の進め方は，２とおりあると思っていて，１つは，始める前にしっかり準備をして，これで大丈夫だというところまでいって，始めるパターンもあるでしょうけれど，やりながら考えて，うまくいかないところがあったら，また振り返ってみるというやり方もあると思っていて，このコミュニティ・スクールの導入は，まさに後者であると思っていたものですから，校長先生方には，相当無理していただきながら，今年１００％として，幼・小・中・高全部に入れました。お話をお聞きしていて，やはり思っていたとおりだなと思ったことは，導入の最初は，学校主導にならざるを得ないということで，その象徴的な例が，えさん小のコミュニティ・スクールだよりであります。これを教頭先生が作っていたのが，いずれ地域の方に作ってもらうことや，あるいは，また別の形になることもあるかなとも思いながら，グラデーションのように少しずつ少しずつ学校から手を放していって，本当に地域の中で成立していくようになるといいな，と思っておりました。そういう観点からいいますと，今日，委員のご意見の中で出てきましたように，うまく進んできているところに，早くコーディネーターを正式に，今は善意のコーディネーターだと思っているので，正式に教育委員会から配置をする必要もある地域が出てきているなと考えています。まだそこまで到達してな

い地域に無理やりコーディネーターをおいて無理に進めてもらうのは，私はいいことだと思ってないので，うまく進んできているところには配置してあげたいと，強く思いました。それから，それらを統括する，束ねる親玉のようなコーディネーターも必要だと思いながら，聞いていました。

１つ質問がありまして，今日の発表は小学校が２つでしたが，中学校の活動でいくつか特徴ある取り組みがあれば教えていただきたいと思います。

■菊池学校教育指導監

特徴ある取組として，２つほど中学校の話をさせていただきます。最初に恵山中学校の実践例を紹介します。恵山中学校の生徒は，総合的な学習の時間に，地域学習恵山学を学んでいます。学んだことをもとに，つつじ祭りの折に，中学校３年生が観光ガイドとして，来訪された方々にさまざまな特徴について話をし，お褒めの言葉をいただいたとのことです。こちらが，恵山中学校の取り組みです。次に，五稜郭中学校です。中学校は，特に生徒の主体性を重んじて教育活動を行いますが，五稜郭中学校では，生徒玄関前に，町会や児童館のイベントの掲示板を設置しているそうです。私たちの町会ではこんなことをやります，児童館ではこんなことをやります，中学生の手を借りたいので，ぜひ参加してください，協力してください，という呼びかけのポスターを貼るそうです。昨年度，敬老の日のイベントとして，北浜町会から依頼があり，北浜町会に住んでいる生徒たちに１つのブースが預けられて，中学生という視点でお店を開いてくれないかとお願いされたそうです。生徒たちはさまざま知恵を出し合いながら，ネイルサロンを考え，敬老の日に来られたおばあちゃん方に爪の手入れをして，好評だったとのことでした。恵山中学校，五稜郭中学校の実践例です。

■工藤市長

コミュニティ・スクール全体について，今後の取り組みに期待するもの，あるいは，方向性等でご意見あればお伺いしたいと思いますが，何かありますか。

■辻教育長

教育委員会で考えていることは，学校運営協議会の形態です。小学校が単体で配置しているところ，中学校が単体で配置しているところもありますし，中学校を核にして校区の小学校と一体化して進めている学校運営協議会もあります。それぞれやりやすい方でよいと思っていまして，そのように校長先生方にもいっていますが，一長一短だということです。中学校と校区の小学校が全部一体となった学校運営協議会は，小・中の連携などはとてもやりやすくなるようですが，母体が大きくなりますので，学校運営協議会そのものが小回りきかなくなるなどもあるようでして，教育委員会としても，どちらがいいのかということについては，なかなか結論が出ないものと思っています。より取り組みやすい，より効果が出ている形態をこれからも研究していかなければならないと思っているところです。

■工藤市長

私から，１つよろしいですか。先程もあいさつで申し上げましたが，今，健康づくりに非常に力を入れています。自分が発信していくのが１番よいのではないかと思い，あちらこちらのあいさつのたびに，平均寿命が短い，がん死亡率が高い，がん検診を受けてくださいといって歩いています。先程いったように，中核市４５市の中で，本市は平均寿命４４位，隣の青森が４５位です。何が要因かというと，がん死亡率が高いことにあります。がん死亡率が１番高いのが青森県で，２位が鳥取県，３位が北海道です。北海道の中では，旭川や帯広，札幌に比べて道南，函館が高い。ずっと高いです。４位が秋田県，５位が岩手県で，がん死亡率ワースト５のうち，北海道と北東北３県が，４つとも縄文遺跡の世界遺産登録に向けて頑張っているところです。縄文遺跡の世界遺産登録の前にがん死亡率を何とかしようといっているぐらいで，津軽海峡をはさんでこの４県が典型的です。がんの原因にはさまざま要因となるものがあるとお医者さんから伺いました。たばこ，喫煙などだそうです。函館は，男性は全国平均より少し低いですが，女性の喫煙率が非常に高い。先日青森にいきましたら，青森市長も，うちも女性の喫煙率が高い，それが大きく影響している可能性があるといっていました。それからお酒です。適度以上に飲む方が，全国平均より男女ともに多いそうで，さらにしょっぱいものを食べるなど，生活習慣の問題もあるかもしれませんが，これは子どものうちから教育をしていかないと，大人になってから治らない人がいっぱい出てくるわけです。何とか，健康を子どものうちからしっかりと意識してもらうことが必要だと考えています。元々函館は子どもの虫歯が多く，子どもが不健康かどうか，子どもの病気の率は何ともわからないが，来年の８月から子ども医療費無償化がスタートして，課税世帯の通院だけは，今までどおり１割負担で，それ以外は全部無償化が始まります。長生きしてもらう，平均寿命を伸ばす，健康寿命を伸ばすこと，函館の子どもたちが元気で，年をとっても元気であることが大切だと考えています。その子どもたちが，うちに帰ってお母さんに，たばこやめなさい，お父さんたばこダメよと，あるいは，お酒飲み過ぎないで，といってもらえるとなおさら効果的だと思います。いろんな取り組みもまたコミュニティ・スクールの中で，地域を巻き込みながら，健康づくりについてぜひ考えていただきたいなと思います。

それではその他として皆さんからありますか。特になければ，私の進行役は終わりまして，事務局に返したいと思います。よろしくお願いします。

■佐賀井室長

ありがとうございました。それでは，最後に，教育委員会を代表し，教育長からごあいさつをいただきます。辻教育長，よろしくお願いします。

４　教育長あいさつ

■教育長

皆さんお疲れ様でございました。特に今日は南本通小学校とえさん小学校の先生，そして支えていただいている皆さんに，ご参加いただきました。実践に基づいた話し合いができて，抽象的な議論では終わらないところが，今回，総合教育会議の目玉でしたので，ねらいどおりの議論ができて，とても良かったと思っているところです。改めましてお礼を申し上げます。

また，若干おこがましい気もしますが，学校の校長先生や学校を支えていただいている方々に，こうした総合教育会議の場面を直接見ていただいて，体験していただくことも私の願いの１つだったものですから，それも今日実現できて良かったと思っているところです。

また，市長にも，今進んでいるコミュニティ・スクールの様子を直接お聞きいただくことができ，これも貴重な機会になったと思っています。市長におかれましては，本日はお忙しい中，総合教育会議の司会を務めていただきまして，誠にありがとうございました。会議の内容で申しますと，コミュニティ・スクールは，そもそもは，かつては地域に開かれた学校づくりを進めましょうと，学校運営の方針があったわけですが，そもそも学校は地域の中にあるものであって，その原点に戻りましょうということだと思います。街づくりに力を発揮するところまでいけるかどうかは私も自信がないですが，なんらかの街づくりに良い影響を与えられるような学校運営協議会，コミュニティ・スクールになっていくことができたらと考えています。

これからも，教育委員会としては，各学校，そして，地域の取り組みを支援してまいりたいと思いますので，改めましてよろしくお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございました。

５　閉会

■佐賀井教育政策推進室長

ありがとうございました。以上で本日の協議事項は，すべて終了いたしました。これをもちまして，令和元年度函館市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

■終了

午前１１時４０分